

衣生活

■繊維産業

3R⑮

循環型社会形成推進基本法に基づく処理の優先順位。リデュース、リユース、リサイクルの順で、これらにリフューズ、リペアを加えて4R・5Rとする場合もある。

SPA⑰

企画、開発、製造、物流、販売など全ての工程を一貫して行う製造小売業のこと。1986年に米国GAPのフィッシャー会長が発表した言葉で、Specialty Store retailer of Private label Apparelの略。日本では1990年代からSPA業態が発達し、代表的な会社にユニクロがある。

アパレルメーカー⑱

衣服の企画、製造を行い、小売店に卸売を行う企業。しかし生産をアウトソーシングする企業も多い。また企画を海外ブランドが行い、国内で生産・販売するものをライセンス生産・販売といい、大手アパレルメーカーが行うケースも多い。

卸⑳

メーカーから商品を調達し、小売業者に販売する業態。調達・販売の他、物流機能、金融機能、情報提供機能を持つ。

繊維一次製品㉑

糸や織物、ニット生地など、製品の形となっていない繊維そのもののこと。

繊維二次製品㉒

洋服など、繊維一次製品から作られた繊維製品のこと。日本の輸入繊維製品の多くを繊維二次製品が占めており、中国からの輸入が最も多い。

繊維製品リサイクル率㉓

経済産業省「繊維製品3Rシステム検討会報告書（平成23年6月）」によると、衣料品、カーテン、カーペット、タオル、布団など繊維製品全体のリサイクル率は9.5%、リユース率は10%、リペア率は2.6%、3R率は26.3%となった。ちなみに10年前の平成13年の3R率は10%程度。

労働集約的産業㉔

サービス業など、労働力への依存度が高い産業のこと。その中でとくに知識労働への依存度が高い研究開発型産業を知識集約型産業という。これに対して重化学工業など資

本への依存度が高い産業を資本集約型産業という。

■衣服の消費性能

衣服気候⑲⑳

衣服と皮膚の間の空間の温度・湿度・気流の総称。着衣の快適性をはかる一つの基準となる。快適と感じる衣服気候は一般に32℃前後で、湿度は50%前後が良いとされる。衣服の保温力を表すクロー値（1クローは21℃・湿度50%以下）と混同しないこと。着衣の快適性を決める要素としては、衣服気候のほか、衣服圧（ストレッチ性）、肌触りなどがある。

衣服の皮膚刺激㉑

毛による刺痛などの物理的的刺激と加工剤等による化学的的刺激がある。

含気率㉒

繊維製品は織目や編目、糸の間に空気を含んでおり、布などの見かけの体積中の空隙の体積の割合を含気率という。一般的布地の含気率は60～80%程度のもが多く、毛羽があつたりかさ高い構造の布ほど含気率は大きくなる。含気性は保温性、圧縮性、通気性に関係する。

吸湿性㉓

不感蒸泄（皮膚面から絶えず水分が蒸発すること）などを吸収する性能。一般に合成繊維や半合成繊維は低く、天然繊維や再生繊維は高い

吸水性㉔

汗などの水分を吸収する性能。毛製品のように、吸湿性は大きい吸水性は小さい繊維もある。

クロー㉕㉖

衣服の保温力を表す単位。1クローとは気温21℃、湿度50%以下、気流10cm/secの室内で安静にしているときに快適と感じる衣服の保温力を言う。気温が低ければクロー値の大きい衣服が必要となる。

公定水分率㉗㉘

最も平均的な気温・湿度の際の繊維に含まれる水分を定めたもの。主な繊維を公定水分率が高い順に並べると毛（15%）、絹及び麻（12%）、ビスコース繊維（11%）、綿（8.5%）、ナイロン（4.5%）、ポリエステル系合成繊維（0.4%）となる。